

六代藩主 伊達宗村

仙台市博物館 学芸普及室 菅原美咲



待望の男子誕生

伊達宗村は幼名を勝千代丸かつちよまるといい、享保三年（一七一八）に五代藩主伊達吉村の四男として誕生しました。それまで吉村と正室冬姫ふゆひめ（長松院ちながのいん）との間に生まれた子はすべて女子だったため、夫人自身は勿論、吉村や隠居した四代藩主綱村も世嗣よつぎとなる男子誕生を心待ちにしていたようです。現在陸奥国分寺（若林区木ノ下）には、安産にききめがあるとして知られる准胝観音じゆんぢくわんおん像および観音堂が伝わっています。これは、享保四年に冬姫が男子誕生の大願成就を謝して寄附したものと伝わり、宗村がまさに待望の男子誕生だったことがうかがえます。

父母の期待を受けて

世嗣としての養育を受けた宗村は、人生の様々な場面で父母からの教訓を受けています。例えば母冬姫は、元服した宗村に対して、藩主として必要な資質を説いた長文の教訓状を記しています。父吉村は、享保二〇年（一七三五）八代將軍徳川吉宗の養女である利根姫を宗村の正室に迎えるにあたって、夫婦の心得を説いた自筆の教訓状を、また宗村の仙台初入国にあたっては、道中の心構えを細かく記した自筆の教訓状を渡しました。

寛保三年（一七四三）、宗村は二六歳で六代藩主に就任したのちも、時々隠居した父吉村に意見を求めながら藩政の運営にあたりました。

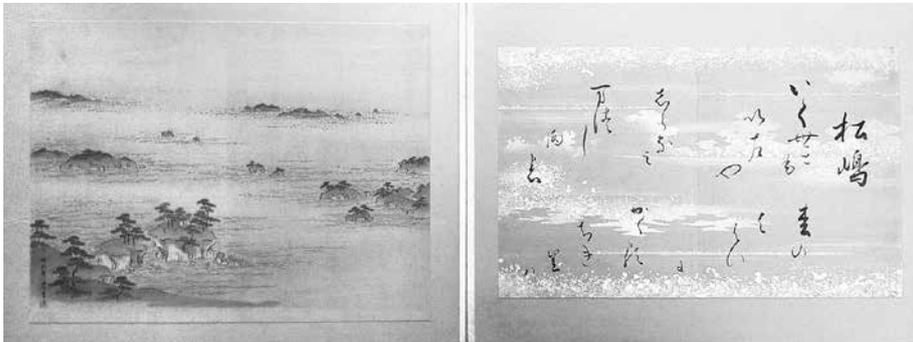
相次ぐ災害

藩政運営にあたって、宗村は質素節約を重視し、在職中に度々儉約令を出しました。しかし、江戸麻布下屋敷の類焼、仙台城下の大火、領内の大洪水や早魃さかばなど災害が相次ぎ、仙台藩の財政は厳しい状況が続きました。宗村は、緊縮措置として仙台藩の蔵元に御用金の融通を命じて対応にあたりました。死の直前、江戸で病に伏す宗村は、前年から続く宝暦飢饉うしほでの領内の惨状を憂慮し、すぐに救恤金きゆうじきんを準備するよう早飛脚で指示したといえます。こうした厳しい藩運営が続くなか、宗村は宝暦六年（一七五六）三九歳の若さで病死します。

故実・歴史を好む

宗村没後に編さんされた記録によると、宗村は「古風」を好み、当時の流行には批判的だったと記されています。実際に、宗村は武器や武術などの故実の調査を行っており、伝統的な武家について関心があったようです。

また、藩政運営に際して先代の歴史を知る事は不可欠であるとして、伊達輝宗・政宗・忠宗・綱宗の事績を記した四代治家記録しよだいぢけきろくのほか、伊達綱村の事績を記した青山公治家記録こうぜんや綱村の遺言なども講読したようです。父・母はもちろん先代の歴史を大事にしたことがうかがえます。



仙台領分名所手鑑 仙台市博物館蔵
仙台藩領内の名所について、和歌を宗村が書き、絵は狩野派の絵師狩野典信が描いたもの。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

宮城県民芸協会設立50周年記念 企画展

日本民藝館所蔵品による 手仕事の日本 —柳宗悦のまなざし—

6月3日(日)まで好評開催中!

大正時代、思想家・柳宗悦は日常の生活用具の中に美を見出し、全国を旅してそれらの品々を収集しました。

この企画展では、柳が著書『手仕事の日本』に取り上げた各地の民芸品や芹沢銈介の『日本民藝地図』など数々の優品を紹介します。

【観覧料】常設展料金でご覧いただけます。
一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)
※()内は30名以上の団体料金

【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで) 【会期中の休館日】毎週月曜日

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 仙台市博物館 検索
SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台北三の丸跡) ▶ ツイッター @sendai_shihaku



《常設展でも関連展示を開催中》
所蔵品にみる
仙台・宮城の伝統工芸
7月8日(日)まで



【左】橋文様常盤鉆型(部分)
宮城県(仙台)1934年頃
【右】羽広鉄瓶
山形県(山形)1934年頃
掲載資料はいずれも日本民藝館蔵